

令和8年度 シラバス

愛媛県宇和島東高等学校津島分校

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3	学年	3年	類型	ビジネスコース
教科書	東京書籍 地理探究			副教材	東京書籍 地理探究				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1学期	4	第1編 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境	1節 世界の地形 1地形をつくる力 2プレートの運動と様々な境界 3変動帯の地形 4安定陸境の地形 5河川がつくる地形 6海岸と海にみられる地形 7気候と地質の影響が強い地形		○	◎	学習のねらい 「地理探究」は、「地理総合」の学習を前提に、地理の学びを一層深め、生徒たち一人一人が「生涯にわたって探究を深める」ためのきっかけづくりとして位置づけられ、系統地理と地誌に大別される地理学の成果や方法をふまえた上で、地理的な諸課題を探究することを通して持続可能な社会を形成することを意図して学習内容が構成されている。 これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
			2節 気候と自然環境 3節 気候と人々の生活 4温帯の特徴と人々の生活(1) 5温帯の特徴と人々の生活(2) 6寒帯・寒帯の特徴と人々の生活 7高山気候の特徴と人々の生活 1日本の地形と自然災害 2日本の気候と自然災害 3自然災害と防災・減災の取り組み	◎		○	
			4節 日本の自然環境と自然災害 1地球規模の環境問題 2地球温暖化の背景と影響 3オゾンホール、大気汚染の背景と影響 4森林破壊の背景と地域性 5砂漠化・水問題の背景と地域性 6日本の環境問題	○	◎		
	5	第2章 産業と資源	中間考査	◎	◎		
			1節 産業の発展と社会的分業 2節 農林水産業 3節 食糧問題 1産業の変遷 2産業構造と地域構造 1産業の立地と形態 2世界のさまざまな農業地域 3グローバル化と農業地域の変容 4拡大する世界の農産物の流通 5世界の林業・水産業 6日本の農林水産業 1食糧問題の背景と地域性 2食糧問題の解決に向けて 3日本の食糧問題		○	◎	
			4節 エネルギーと鉱産資源 5節 資源・エネルギー問題 6節 工業の立地と工業地域 1世界のエネルギー需要 2化石燃料 3電力生産 4金属資源 1化石燃料への依存と国家間の対立 2化石燃料から再生可能エネルギーへ 3日本の資源・エネルギー 1工業の立地と工業地域 2繊維・鉄鋼・石油化学 3自動車・エレクトロニクス 4新しい技術と工業	○		◎	
	6		5グローバリ化と工業地域の再編 6工業の知識集約化 7日本の工業とその変容		◎	○	
			期末考査	◎	◎		
			7節 第三次産業 1サービスの経済化の進展と流通産業の発達 2情報通信業とその集積 3医療・福祉産業の課題	◎		○	
	7	第3章 交通・通信、貿易、観光	1節 交通・通信 3情報通信技術の発達	◎	○		
			2節 貿易と経済連携 3節 観光 1貿易の自由化と経済連携 2現代貿易の課題 1観光の発達と地理的展開 2さまざまな観光	○		◎	
			1節 人口 2人口問題 3人口移動の変遷と今日の姿 1世界の人口分布と人口増加 2人口動態と人口ピラミッド 3人口移動の変遷と今日の姿	◎	○		
2学期	9	第4章 人口、村落・都市	2節 貿易と経済連携 3節 観光 1節 人口 2人口問題 3人口移動の変遷と今日の姿 1発展途上国の人口問題 2先進国の人口問題 1村落の機能と形態 2都市の機能と都市システム 3都市の内部構造と大都市圏	○		◎	学習の目標 ① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。 ② ①をふまえて、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。 ③ ①、②をふまえて、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を探究する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。
			4節 居住・都市問題 1発展途上国の居住・都市問題 2先進国の居住・都市問題 3日本の居住・都市問題	◎	○		
			1節 生活文化の地域性 2節 民族・言語・宗教 1文化と環境 2世界の食生活 3世界の住居・衣服 1世界の民族と言語 2世界の宗教		◎	○	
	10	第5章 生活文化、民族・宗教	中間考査	◎	◎		
			3節 民族問題 4節 現代の国家と領土問題 1世界の多様な民族問題 2紛争と難民 3民族問題をどう乗りこえるか 1国家の領域と国境線 2領土問題の要因と解決への取り組み	○		◎	
			1節 地域区分の意義と方法 3地域の考察方法 1地域区分の意義 2さまざまな地域区分の方法 3地域の考察方法		○	◎	
	11	第2編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代社会の諸地域	1節 東アジア 2節 東南アジア 3節 南アジア 4節 西アジアと中央アジア 5節 北アフリカとサハラ以南アフリカ 6節 ヨーロッパ 1中国の改革開放と急速に進む工業化 2中国の農業・農村の近代化と都市化 3環境問題などの課題 4経済成長により広がる中国の影響力 5韓国の経済成長と地域構造 6韓国の都市・農村の変化と生活文化 1東南アジアの多様な文化 2東南アジアの地域性と農業 3ASEANの政治と経済発展 4国家間の格差などの課題 1グローバル化と南アジアの経済発展 2大都市の形成と格差の問題 3インドの人口増加と農村の変化 4南アジア世界の多様性と統一性 1交易の歴史と人々の生活 2乾燥地に適応した生活文化と宗教 3資源開発にみられる二つの地域の違い 1多様な文化の成り立ち 2モノカルチャー経済発展の課題 3アフリカの発展と新たな課題 1ヨーロッパ統合の流れ 2ヨーロッパの農業とその変容 3ヨーロッパの産業とその変容 4EUの拡大と地域格差 5揺らぐ「一つのヨーロッパ」	◎	○		
			期末考査	◎	◎		
			7節 ロシア 8節 アングロアメリカ 1多様な民族と宗教 2ポスト社会主義時代の暮らし 3周辺国との産業・資源をめぐる関係の変化 1アングロアメリカの農業 2多民族国家がかかえる問題 3世界最大のアングロアメリカ経済 4先端産業の発展と鉱工業地域の変化 5情報社会に移行する大都市圏	◎		○	
3学期	1	第3編 現代世界と日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究	9節 ラテンアメリカ 10節 オセアニア 1節 日本の地理的諸課題を眺め解く 2節 持続可能な国土像の探究 1日本の地域構造 2日本の国土政策 1課題と仮説の設定 2仮説の検証と考察、さらなる探究へ	◎		○	主体的に学習に取り組む態度 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。
			学年末考査	◎	◎		
			家庭学習				
	2		〃				
			〃				
			〃				
	3						

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

- あなたは、あなたが住む地球(世界)のことをどれだけ知っているでしょうか。
- わたしたちを取り巻く地球環境や国際情勢は日々変化を続け、わたしたちの生活圏から地球規模にいたるまで数多くの課題を抱えています。
- これらの諸課題を解決するための方法や工夫は、地理的な見方や考え方を身につけることで見いだすことができます。
- そのためには、地球上のさまざまな自然環境や生活文化、産業といった地理的事象や世界の諸地域について認識し、多面的・多角的にとらえる必要があります。
- 21世紀を迎えた今日、地球上には80億を超える人類が暮らしています。その暮らしは多様であり、全てを知ることは到底できません。でも、わたしたちとは異なる暮らしを学ぶことによって、より広い視野で地球と世界の問題を見つめることができると思います。
- 地球と世界の現状を知り、未来を語る旅に出かけましょう！

【授業】

- 週に3回の授業があります。
- 地理は「どこに何があるか」が基本(大前提)にある学問です。
→ 普段から、地図帳を見る癖をつけておきましょう。
- 地理では、データや統計資料を活用して、作業学習や調べ学習を行います。
→ 課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とします。課題の設定・追究学習を行う際には、「演習問題」などを参考にしてください。

【家庭学習】

- 地理は決して机上の空論ではありません。生きた学問です。
→ 普段から、テレビ・新聞記事・インターネットなどを見て、社会情勢に興味を持つことが大事です。
- 学習内容の振り返りを行う際には、「確認しよう」などを参考にしてください。

【定期考査】

- 年5回実施の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考・判断・表現を評価します。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の3つの観点から総合的に評価します。	
評価の規準	1 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノート等の整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	2 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノート等の整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	3 学 期	学年末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノート等の整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均